

れき 民  
となん歴民だより Vol.71

Morioka tonan history and folklore museum 令和4年12月28日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228

祝「風流踊」ユネスコ無形文化遺産登録

永井の大念仏剣舞(盛岡市永井)



令和4年11月30日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）は、「永井の大念仏剣舞」、「鬼剣舞」を含む全国41件の民俗芸能「風流踊」の無形文化遺産登録を決定しました。

本県では、花巻市の「早池峰神楽」、大船渡三陸町の「吉浜のスネカ」などを含む「来訪神 仮面・仮装の神々」、二戸市の日本うるし搔き技術保存会の「漆搔き技術」を含む「伝統建築工匠の技」に続いて4件目となります。

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

○企画展「都南のあゆみ」終了報告

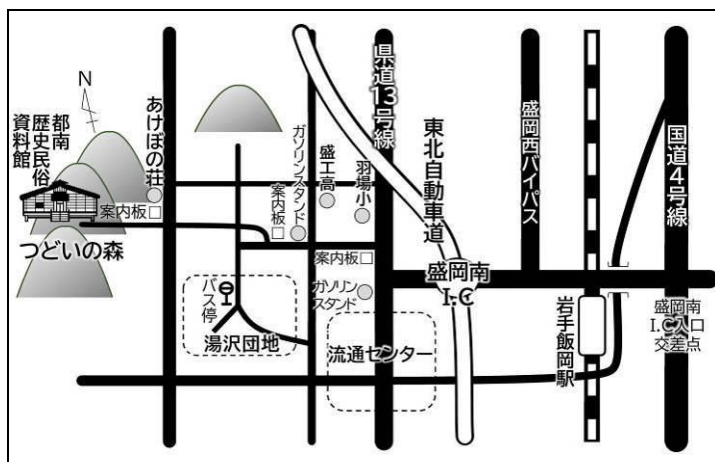
○資料は語る(71)

○盛岡市所在  
指定・登録文化財紹介(71)

○都南の史跡・文化財めぐり(1)

MAP☆ACCESS

★「都南つどいの森」の案内板を目印にお越しください★



○利用案内

開館時間

午前9時から  
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日  
(祝祭日にあたる日  
の場合は翌平日)、  
年末年始

# 企画展「都南のあゆみ」終了報告

都南歴史民俗資料館では、令和4年7月16日（土）～11月13日（日）の期間、企画展「都南のあゆみ」を開催いたしました。期間中は、1,004名の多くの方々に来館いただきました。

企画展では「都南地域の歴史」「都南地域の発展」「都南地域の史跡・文化財」「都南地域の学校の変遷」の4コーナーを設け展示説明いたしました。その中から「都南地域の歴史」についてご紹介いたします。

## 1 江戸時代から明治22年（1889）まで

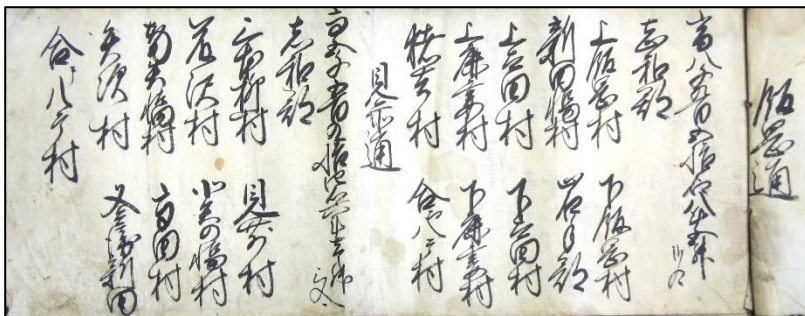
江戸時代の都南地域の14ヶ村（邦内郷村誌による）は、代官が統治する「上田通」「飯岡通」「向中野通」「見前通」の4行政区に所属していました。見前町には、見前通と向中野通の代官所が置かれていた時代もありました。

飯岡通……上飯岡村、下飯岡村、羽場村、鹿妻村、上太田村、中太田村、下太田村・・・など

向中野通…津志田村、上永井村、下永井村、湯沢村、向中野村、本宮村、赤林村、煙山村など

見前通……三本柳村、東見前村、西見前村、高田村、藤沢村、矢次村、北矢羽村・・・など

上田通……手代森村、黒川村、乙部村、大萱生村、加賀野村、志家村、門村、安庭村・・・など



江戸時代の村々の名前と石高が「通」ごとに記されています。都南地域の村々の名前も記されています。

本館所蔵「南部領通」より

宝暦3年(1753)

明治4年(1871)になると、明治政府は、郡村制を廃して、「区制」を実施し、番号による行政区に移行しました。

第4区……手代森村、黒川村、乙部村、大萱生村、門村、川目村など12ヶ村

第6区……上飯岡村、下飯岡村、飯岡新田、羽場村、下鹿妻村の5ヶ村

第9区……津志田村、三本柳村、仙北町村、向中野村、本宮村の5ヶ村

第10区……永井村、湯沢村、赤林村、広宮沢村、煙山村の5ヶ村

第11区……東見前村、西見前村、高田村、藤沢村、西徳田村など8ヶ村

江戸時代から明治期の初めの頃まで、都南地域の村々は、場所によっては、都南地域の村々よりも現在の盛岡市や矢巾町の村々と関係が深く、交流がありました。



明治初期の三本柳村の間大絵図 本館所蔵

## 2 明治22年（1889）

「市町村制」が施行され、見前村、飯岡村、乙部村の3ヶ村が誕生しました。

見前村……東見前村、西見前村、津志田村、三本柳村が合併

飯岡村……上飯岡村、下飯岡村、飯岡新田、羽場村、湯沢村、永井村が合併

乙部村……手代森村、黒川村、乙部村、大萱生村が合併

## 3 昭和30年(1955)

見前村、飯岡村、乙部村が合併し、都南村が誕生しました。この頃の都南地域は、水田が広がる近郊農村地帯でした。国道4号線の津志田地区、三本柳地区、見前地区などに集落が形成され、現在のように企業や商店などの進出はほとんどありませんでした。手代森地区や黒川地区では、集落は、現在の国道396

号線沿いではなく、東側の山際に形成されていました。飯岡地区や羽場地区そして湯沢地区には、水田が広がっていました。現在の国道4号線川久保付近から岩手飯岡駅付近までは水田が広がり、集落はありませんでした。また、現在の都南分庁舎付近から岩手飯岡駅付近までも水田が広がり、集落はありませんでした。



昭和33年(1958)に完成した旧都南村役場です。水田の中に建設されました。

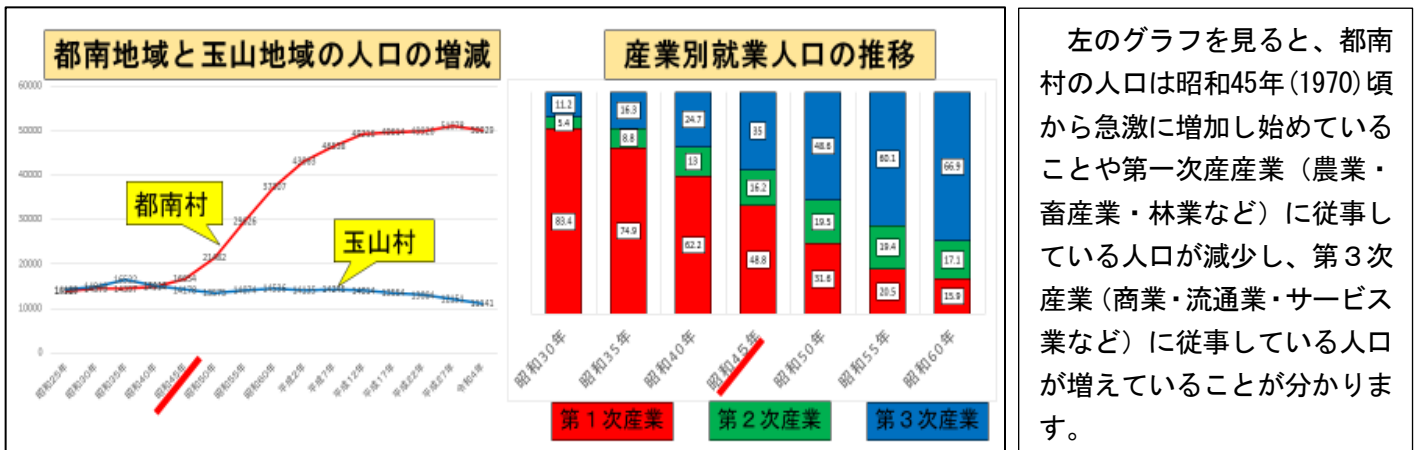


左の写真は、昭和30年(1955)頃の写真です。旧都南村役場付近から岩手飯岡駅まで水田が広がり、集落はありませんでした。右の写真は現在の様子の写真です。左の写真と比べる都市化の様子が分かります。



#### 4 昭和45年(1970)頃から

盛岡市の近郊農村地帯であった都南地域は急速に盛岡市のベッドタウンとして都市化が進行します。



左のグラフを見ると、都南村の人口は昭和45年(1970)頃から急激に増加し始めていることや第一次産業(農業・畜産業・林業など)に従事している人口が減少し、第3次産業(商業・流通業・サービス業など)に従事している人口が増えていることが分かります。

東北自動車道盛岡南インターチェンジが昭和52年(1977)に完成、東北新幹線が昭和57年(1982)に盛岡・大宮間で開通しました。国道4号線沿いには、住宅や企業・商店が急速に集積し始めます。

しかし、都南村の北上川には橋が架橋されていませんでした。乙部地区と見前・飯岡地区を往来するためには、南大橋か徳田橋を迂回するしかありませんでした。昭和60年(1985)に都南中央橋、昭和62年(1987)に都南大橋が開通し、村民の長年の悲願が達成されました。

#### 5 平成4年(1992)

盛岡市と都南村が合併し、都南地域は盛岡市となりました。今年度で、合併30周年を迎えました。



昭和25年(1950)頃と令和4年(2020)の津志田バス停留所付近の写真です。



都南分庁舎に「盛岡市・都南村合併30周年」、「ユネスコ無形文化遺産登録」を祝う懸垂幕が掲げられました。



【 タイガー手動式計算機 本館所蔵 】

大阪府に本社がある大本鉄工所の創業者である大本寅治郎は、大正8年(1919)に国産計算器の発明考案に着手、大正12年(1923)に完成し「虎印計算器」として販売を開始しました。

関東大震災後、東京復興の機運がみなぎり大建造物、大工場の建設が始められました。鉄筋・鉄骨造の建築物の大工事には強度その他の計算を必要とし、需要が一気に高まりました。

昭和5年(1930)に「タイガー計算器製作所」を設立しました。太平洋戦争後の復興需要に伴って事業を拡大します。

しかし、昭和39年(1964)にはトランジスタ式計算機、昭和41年(1966)にはICを使った電子計算機が登場しました。

そして、昭和45年(1970)に「タイガー手動式計算機」は惜しまれつつも製造を中止しました。

本館所蔵の「タイガー手動式計算機」は、昭和40年(1965)製のものです。値段は3万5千円でした。当時の会社員の一カ月の給料とほぼ同じでした。現在は、技術の進歩で電子計算機が安く買えるようになりました。

岩手県指定有形文化財 彫刻



木造十一面観音立像 ほか

所有者：宗教法人東楽寺（盛岡市玉山字一笠）

針桐材の一木造で、制作時期は平安時代後期と考えられます。丸い頬、伏せた目、小さな唇が特徴的で、体の前面で上下2段、平行に垂らした天衣や下半身を覆う裾などの衣文の優美な表現からは、中央の仏師の作風をうかがわせます。

東楽寺の収蔵庫には、本像のほかにも、8体の仏像が保管され、いずれも県の有形文化財に指定されています。

十一面観音は、古くから霊山として信仰されてきた姫神山中、姫神権現の本来の姿である本地仏として祀られてきました。また、盛岡藩3代藩主 南部重直の代には、仁王から観音像と仁王像が、玉山観音堂（現姫神嶽神社）に遷座しており、藩の祈願所として保護されていました。

明治の神仏分離令によって、社堂を失った諸仏は姫神嶽神社に集められていましたが、昭和2年(1927)に東楽寺に移され、現在に至ります。

参考文献等：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』（2008）

参考文献等…都南村教育委員会『村の史跡めぐり』平成四年発行



南陽山高禪寺



小山神社

都南の史跡・文化財めぐり① 小山神社と高寺観音

南陽山高禪寺、通称、高寺観音と称しており、当国十三観音第十番札所でした。

明治三年（一八七〇）に小山神社と改号し、手代森村の村社となりました。

明治二十二年（一八八九）に手代森村は、乙部村と合併し、大正二年（一九一三）に乙部村の村社である館林神社へ合祀されました。

終戦後、元の場所に移り、沢目部落の人たちが奉祀しています。

高寺観音は、遠く桓武天皇の勅願によって創建されたと伝えられてきました。廃寺のときに、ご本尊の十一面観音像は、盛岡の大慈寺に移されてしまいました。明治四年（一八七二）の頃です。

この像をみだりに見ると怪我をするという伝承がありました。

今、この像は大慈寺にあり、高さ一尺五寸（四十五センチメートル）で行基の作といわれています。現在、ここにある像は、分身をお祀りしています。